

台湾政策について

2018年6月



幸福実現党

わが党は、かねてより、東アジア地域の平和と繁栄を守っていくために、日本と台湾との経済・安全保障両面での関係強化の必要性を訴えてきました。

アメリカと北朝鮮の協調が進み、アジアの課題は中国問題へとシフトしていきます。その主たる舞台は、沖縄近海であり、台湾近海であり、南シナ海です。中国の軍事的脅威が周辺国を脅かす中で、日本と台湾が友好関係を深めることは、アジア地域の安定的な平和を生み出すためにも極めて重要な意味を持ちます。

アメリカをはじめ、自由や民主主義という価値観を同じくする国々との連携を強化しながら、日本と台湾は、共にアジアの発展に貢献すべきだと考えます。

以上のような現状認識を踏まえた、わが党の「台湾政策」を記します。

台湾政策

① 日本は、台湾関係法を制定し、台湾防衛に関与する。

日本と台湾の関係には法的根拠が存在しない。この不安定な状況を改善すべく、日本における「台湾関係法」を定め、日台のあらゆる立場の人物が相互に訪問することを認めるとともに、台湾防衛に寄与する防衛装備の提供を行う。

② 日本は、台湾を「国家」として承認し、国交正常化を進める。

日本は過去において、中華人民共和国(中国)との関係を優先させ、中華民国(台湾)との国交を断ったことへの反省に立つ。領土・国民・主権という国家の要素が明確な台湾を国家として承認した上で、すみやかに国交正常化を実現する。

③ 日本は、台湾の国際連合への加盟(復帰)を支援する。

日本は、多くの国連分担金を支払っている国であり、相応の影響力を行使すべきだと考える。台湾の国連加盟を全面的に支援するとともに、紛争が絶えない国際社会で、「悪に屈服する平和」でなく、「正義のある平和」を実現するために、日本の国連常任理事国入りを目指す。